

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2770302038
法人名	株式会社 カームネスライフ
事業所名	グループホームここから高宮
訪問調査日	平成 20 年 12 月 8 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 16 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 2008年12月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2770302038
法人名	株式会社 カームネスライフ
事業所名	グループホームここから高宮
所在地	寝屋川市高宮1丁目15番22号 (電話) 072-811-3112

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年12月8日	評価確定日	平成21年1月16日

## 【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 8 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 14 人	

## (2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	有( 円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	800 円	おやつ	100 円
	または1日当たり			円

## (4)利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.35 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 小松病院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業者はこの12月でちょうど開設3周年を迎えたところである。まだ周辺に田園地帯が残っている静かな住環境に、広い敷地が確保され、ゆったりとした平屋造りの邸宅風の建物で利用者が充実した生活を送っている。職員は看護師出身の管理者をリーダーとして、開設から変わらないメンバーで、チームワークよく、家庭的な雰囲気の心の通うケアに努めている。「利用者には、昨日があって今日がある、昨日と今日の繋がりを理解するのが大切」という管理者の話が印象的である。地域の自治会が事業所運営に理解があり、協力的であるので、2ヶ月に1回開催される運営推進会議が事業所の運営に活かされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回のサービス評価で取り上げた改善課題については、改善や対策に取り組んできた。家屋へは具体的な報告が継続されている。職員への認知症研修が行われた。介護計画書をフォローする書式改善が行われた、当等の運営の質的向上が実現している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回も管理者が中心となって取り組み、職員と確認する方法が行われた。次回は自己評価の指針と内容を確認の上、全職員の参加で行うことを期待する。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の自治会長や家族が参加した形で会議が行われ、内容についても、開かれたグループホームの実現に寄与するものになっていると思われる。自治会長の事業所への理解と協力により、地域との関係性の強化に役立っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム便りには、利用者ごとに職員がメッセージを書いて、本人の暮らしぶりや健康状態を知らせている。家族会の時や運営推進会議でも家族の要望や相談を聞くように努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会の行事案内により、秋のだんじり祭りや夏の盆踊りに参加するなど、地域社会との連携に積極的に取り組む姿勢が伺える。事業所で開催した、認知症の講習会に近隣の住民が参加することも実現している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に、職員が考えた独自の事業所の理念の中に「地域社会への貢献」が謳われており、グループホームの方向性が表現できている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の引継ぎ時や申し送りの時に連絡事項と共に、理念の確認を行うように心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元自治会の入会条件で加入はできていないが、自治会長はじめ大変協力的であり、行事案内があり、積極的な交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を日常の業務の見直しや振り返りの機会と位置づけて、事業所の改善活動に活かす姿勢が伺えるが、自己評価について十分でない点がある。	○	サービス評価は全職員が参加して、改善の課題を見出す事が重要です。次回の評価時には自己評価について評価の指針を確認しながら、行うことを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域が協力的であるから、運営推進会議の目的が達成できている。事業所の状況を報告すると同時に、地域からの参加者から提案を受けることができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当部門とは、事業所の運営課題や利用者に関係する事項等で情報交換や相談することができている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪の時に、職員から本人の暮らしぶりや健康状態を知らせている。毎月のホーム便りでは個別に担当する職員がメッセージを手書きして、写真を添えて送っているが、さらなる充実ができないか？	○	事業所から本人の様子は十分に行われている。利用者の介護には継続的な家族の協力が必要です。職員の取り組み内容についても便りや、家族会や運営推進会議等の機会を見つけて知らせるようにしては如何か。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を聞く場として、年1回の家族会や運営推進会議がある。個別に家族が来訪された時にも、職員は要望や意見を聞くように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が少ないので、利用者へのダメージあまりない。管理者は職員とのコミュニケーションに配慮した指示、相談ごと、勤務配慮、研修に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得を事業所として推奨している。グループ研修や外部の研修にも機会を見つけて参加している。内部では伝達研修をするようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者と情報交換をする程度のネットワークはできている。行政主催の研修会等で交流や相互の見学に参加できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初期の対応と見極めに気をつけながら、入居前の見学、1週間程度の体験入居を経て、職員と利用者のお互いが馴染んでいくようなステップを踏んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や洗濯、調理などの家事を中心とした生活の中で、職員と利用者が支えあって暮らしていけるように、職員は利用者との関係作りに努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の家族や関係者からの情報収集と、入居後の本人の暮らし方の希望を聞いて、職員間で相談しながら対応の方法を決めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の暮らし方へ希望や家族の要望を聞き、かかりつけ医などの関係者と相談して、日常生活の中で支援していく、介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書の実施面をフォローするために、日常の内容を「介護計画実施表」にて確認している。定期的なカンファレンスで評価し、適時の見直しに繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近くの専門医を講師に呼んで、家族や職員、近隣の住人にも案内して認知症に関する勉強会を開いている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人が希望する、かかりつけ医による受診と内科医による月2回、歯科医は週に1回の往診を受けている。看護師資格の管理者の判断で医療面の支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所における重度化対応として「看取りの方針」を文書化して、家族と本人に説明して理解を得るようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の利用者に対しての言葉かけや、対応の仕方は、利用者のプライドに配慮したやり方で行われていた。記録等の管理も取り扱いに注意されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や生活パターンに配慮をした起床から1日が始まるように、職員は利用者のペースを大切にしながら支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料は食材業者から仕入れているが、調理、配膳、後片付けは利用者に参加してもらいながら、自立支援の機会として、取り組んでいる。食事はゆっくりと、少しは会話を楽しみながら行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回入浴を基本としているが、利用者の希望にも応じられる。職員は利用者がゆっくりと落ち着いて入浴できるように心がけている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の暮らしの中で、利用者それぞれが何らかの役割を持って、行ってもらうように職員は心がけている。全員参加の食事作りの機会や外出、ボランティアによる楽しみつくり工夫をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のADL状態に応じて、その中で運動量をできるだけ増やすように、散歩や買物に声を掛けるようにしている。庭が広いので利用者が外気に触れる機会は多い。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門は防犯のため施錠しているが、玄関はオープンになっており閉塞感はない。利用者は自由に玄関から庭に入出入りできている。庭には幾つものベンチが置かれ菜園には野菜や花が植えられている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的に行い、職員は速やかな避難完了を目標としている。自治会の訓練にも参加している。1階建で庭が広く、防災面では安心感がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量については、日常の個別の記録にて管理され、看護師資格の管理者が確認している。一人ひとりの体調に応じた支援がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	二つのユニットが廊下で直線に繋がった設計の建物で、利用者がお互いを行き来できる。広い庭にも自由に出入りができ、食堂、居間も十分なスペースが取られている。新聞や雑誌が置かれ、利用者が読んでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の馴染みの物が置かれて、落ち着いて過ごせる部屋になっている。畳み敷きの部屋も用意されている。全居室が1階にあるので外の自然が身近に感じられる。		